

# 趣味の王道 ゴルフと釣り



山長 聖和  
YAMANAGA Masakazu

(株)奥村組  
営業本部営業戦略部管理課長

何かにつけて飽きやすい性分で、「熱しやすく冷めやすい」代表格のような私にも、長続きしている数少ない趣味と言えるものがあります。ゴルフと釣りです。世間一般では2つとも趣味の王道として君臨しているうえに腕前も素人同然であるため、本誌をお借りして説明するのも恐れ多いのですが、深くハマることになったきっかけなどを中心に紹介させていただきます。

## ～ゴルフ～

ゴルフというスポーツを知ったのは小学生の頃だったと思います。父親がコンペの優勝トロフィーを持ち帰ってきたことがあり、純粋に「すごいなー」と尊敬の眼差しを向けた記憶があります。それから十数年が経ち、父親と数回ラウンドしてみて、この時の優勝はハンデが大きくなったことによる幸運の賜物だったのだと確信しました。ある意味、実力に関係なく、参加者全員に優勝のチャンスがあるという点もゴルフの魅力だと思います。

話は戻りますが、先述の通り私が小学生の頃は父親がゴルフに大ハマりしている時期でした。当時は宮崎県に住んでおり、いまでも秋に某名門ゴルフ



若かりし頃のフィニッシュ

コースで開催されている男子のトーナメントに連れて行かれたことがあります。野球少年であった私はプロゴルファーに全く興味がなかったのですが、当時全盛期であったA（青木）・O（尾崎）・N（中島）の名前くらいは知っており、観戦中にちょうどそのうちの一人と遭遇する機会がありました。父親に促されて（むしろ父親の方が興奮していたはずです）サインをお願いに行ったのですが、無愛想な態度で無視されてしまいました。今思えば試合に集中して気付かなかった可能性もありますが、子どもの私にとってはそれが大変ショックであり、そのプロゴルファー、ひいてはゴルフというスポーツそのものが嫌いになったことを覚えています（今ではマスターズの解説などにおける小気味良いコメントを楽しんでおります）。このことが原因とは言えませんが、それから社会人になるまでゴルフとの接点は全くありませんでした。

初めてクラブを握ったのは社会人1年目の頃です。入社後、地下鉄のシールド工事現場に配属されましたが、支店の工事部長を筆頭にゴルフ好きの職員が多かったため、定期的にコンペが開催されておりました。その支店に配属された土木系の新入社員はゴルフコンペへの参加が当たり前という風潮もあり、半強制的にゴルフを始めさせられました。現場の先輩にクラブ一式を譲り受け、練習もそこそこにコンペに参加し、例に漏れず大叩きして同伴者に迷惑を掛けたことを今でも覚えております。スコアは148。その後、これより悪いスコアが出ていないことが救いです。

初ラウンドで大叩きはしましたが、クラブハウスの雰囲気、雄大なコースの景色、まれに上手く打てた時の爽快感などから、どっぷりその魅力に取りつかれることになりました。年齢の近い先輩がゴルフに熱心であったことや、石川遼プロの出現による空前のゴルフブームなども大きな要因だったと思います。



過去一番の大物 体長135cm重さ22kgのヒラマサ

入社2年目に配属された共同企業体の現場では、事務所敷地内に2打席の練習施設(鳥かご)を設置することを所長に申し入れ、その計画と資材調達、施工一式を任せられました。思えば、これが自分の責任のもとで施工した初仕事であった気がします。共同企業体の、しかも構成員企業の若造の要望を快く聞いてくれた現場所長や、これに賛同して施工を手伝ってくれた大工の職長さんには心より感謝しています。

そんなやる気もむなしく、スコアは一向に良くなりませんでした。営業職に転向して九州に赴任した30代半ばからラウンド回数が増え、ようやくアベレージゴルファーと言えるようになったと思います。

3年前に再び関東圏に戻ってきましたが、朝の渋滞を回避するための早起きに苦労しつつも、月に1~2回のラウンドを楽しんでいます。

### ～釣り～

もう一つの趣味である釣りですが、きっかけは九州支店在籍時に釣り好きの後輩にお願いして、二人の息子に釣りを体験させてもらったことでした。堤防でのサビキ釣りで小アジを狙うものだったのですが、魚が掛かった時の竿から手に伝わる「ビビビッ」という感覚が何とも言えず、子どもそっちのけで楽しんでしまいました。

そこからの進展は早いもので、すぐに後輩から不要になった道具を譲ってもらい、ワームと呼ばれる疑似餌で堤防からアジを狙う「アジング」という釣りに没頭しました。家の近くに漁港に夜な夜な出かけては釣果を求めていました。

釣りライフの中で大きな転機となったのが、同じ建設業界にいる大学の先輩に誘われて、遊漁船でブリを狙う「ジギング」と呼ばれる釣りを経験した

ことでした。重さ250g~300gの鉛製の疑似餌である「ジグ」を海底まで投入し、リールを巻きながらロッド(竿)を上下に動かす「しゃくり」を駆使して魚を誘い出す釣り方です。その日は夜明け前に博多の港から出向し、玄界灘の荒波の中を3時間弱かけてスポットに向かいました。

水深100m以上の海中で重いジグを動かす「しゃくり」のため想像以上に疲労が早く、しかも周りの方々が次々に釣果を出す中で私には一向にヒットしなかったので、「この釣りには向いていないな」と諦めかけておりましたが、先輩の「しゃくりは釣果なり=しゃくった回数だけ釣果が上がる」という言葉に従い、限界に近づいた腕に鞭打ってしゃくり続けました。そして、「ゴンッ」という強烈な手ごたえとともに、ついに私にもブリが食いつきました。どう猛で暴力的な引きは、それまで狙ってきたアジなどとは全く別次元であり、100m釣り上げるのに相当な時間を要しました。船上に無事釣り上げた時はほぼ放心状態でしたが、自分で釣り上げた10kg近いブリを目の当たりにして感動したことを記憶しております。

それ以降、船釣りの魅力にハマり、月に1回程度は船に乗るようになりました。釣りを通じて色々な方々と知り合うことができたことも、私の中では大きな財産となっています。

今回は私の趣味について2つほど紹介させていただきましたが、ご想像通り、いずれもなかなかのコストを要するもので、この2つの両立を永遠のテーマとされている方も多いと思います。これからも家庭の金庫番と相談しながら、長く向き合っていきたいと考えています。